

2. 釧路湿原全域動植物調査の概要

2-1 植生調査

2-1-1 調査目的

植生は湿原生態系の基盤をなすものであり、今後自然再生事業を進めていく上では、詳細な植生情報が不可欠である。これまでの釧路湿原での植生調査では、リモートセンシング技術を用いて大まかな植生区分は判明している。しかし、湿原への立入が困難なため、現地調査がままならない区域も多く残されており、釧路湿原全域を対象とした植物社会学的な研究レベルでの調査成果が得られていない。

そこで、平成 14 年度から平成 16 年度までの 3 力年をかけて、釧路湿原国立公園の湿原区域を対象に、研究者による詳細な現地調査を実施し、1/25,000 レベルの植生図を作成した。

2-1-2 調査概要

空中写真判読によって広域での面的な植生分布把握を行うとともに、学識経験者の現地調査によって方形区を用いた植生調査を実施した。両者の調査解析結果をあわせて、全域植生図と調査区の総合常在度表を作成した。

調査においては、基礎資料として空中写真から仮判読植生図を作成し、学識経験者の指導・協力のもとで、調査方法及び計画の立案を行い、現地調査実施、調査データ解析を行った。

現地調査は方形区法によって行い、群落種組成の調査は全推定法と被度（%）を併用して行った。調査地点はGPSによって位置を記録した。調査面積は、草本群落では2×2m、低木群落では5m×5m、高木群落では20m×20mを基本とした。

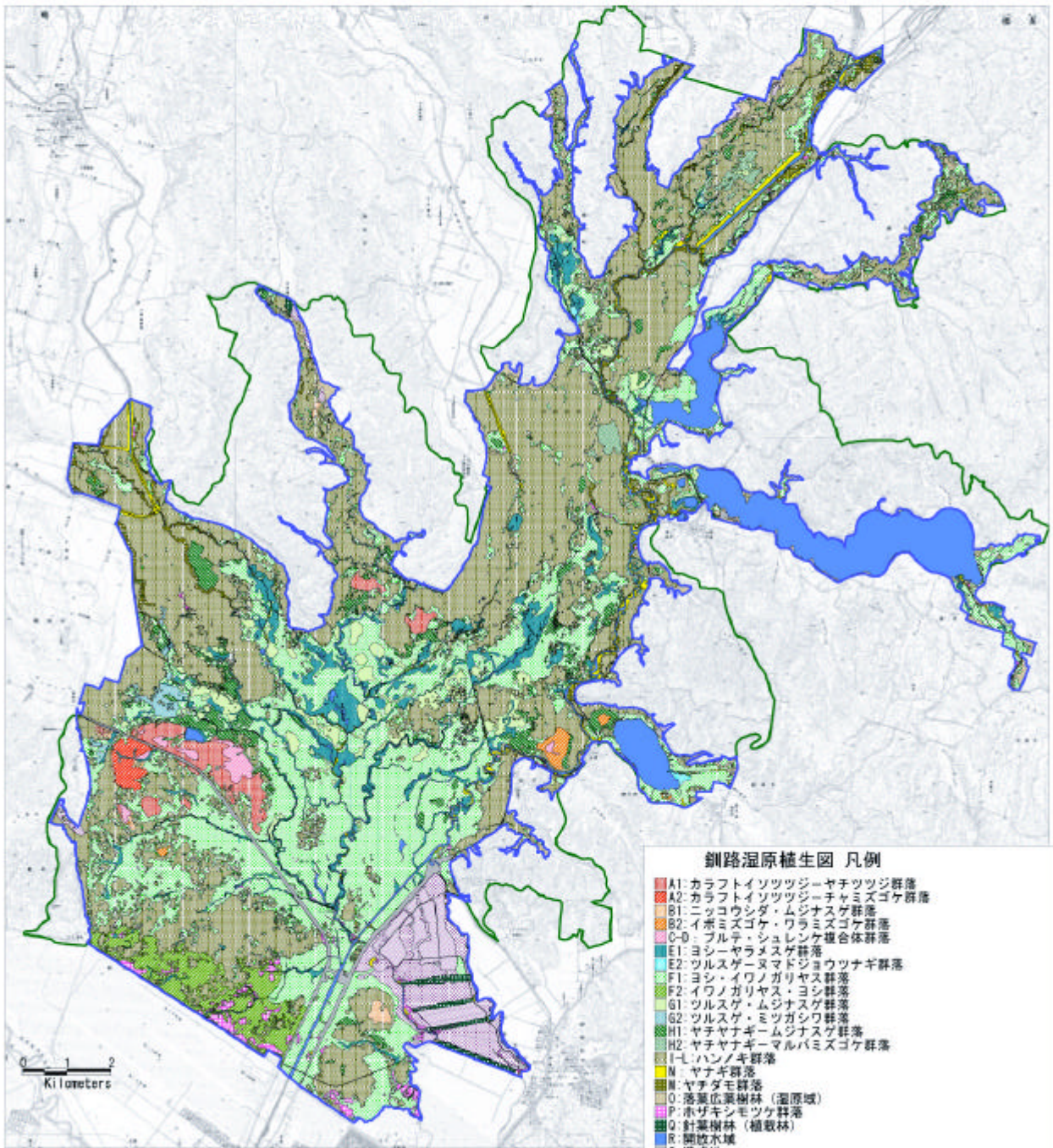
現地調査によって得られた約600個の調査区データについて、高層湿原・中間湿原、低層湿原、ハンノキ群落等に大別し、それぞれの被度素表を用いて2元指標種分析を行い、出現種と調査区のデンドログラムを作成した。この結果に基づいて組成表を作成し、群落の類型化を行った。これらの群落組成表を基に、群落タイプ別に出現種の常在度を算出し、常在度階級によって総合常在度表を作成した。

さらに学識経験者の指導のもと、現地調査解析結果を用いて、現地調査地の群落型を照合して仮判読植生図を修正することによって植生図を作成した。

2-1-3 調査成果概要

本調査によって得られた成果の概要は次の通りである。

- ・ 釧路湿原国立公園区域内の湿原区域について、現地調査結果と空中写真判読によって、1/25,000 レベルの植生図をGISを用いて作成した。
- ・ 現地での植生調査結果については、総合常在度表を作成して整理した。
- ・ 維管束植物については標本採取を行い、過去の資料と対比できるように植物目録を作成した。



釧路湿原植生図

凡例群落名は仮称につき、変更の可能性有り

2-2 希少野生動物の保全調査

2-2-1 在来種ニホンザリガニの保全調査

(1) 目的

近年、外来種ウチダザリガニとの競合等により、釧路湿原における在来種ニホンザリガニの生息地の減少が危惧されている。このため、1998年環境庁調査でニホンザリガニの生息が確認された温根内地区を対象地として、ニホンザリガニの生息状況を把握するとともに、今後の同地区周辺におけるニホンザリガニの保全対策を検討するものである。

(2) 調査手法

- ・ 期間；平成16年9月上旬～11月上旬
- ・ 場所；温根内地区
- ・ 方法；どう、カニ籠による捕獲調査

(3) 結果及び今後の計画

1) 結果

- ・ 温根内地区にニホンザリガニの生息が改めて確認された（平成16年9月29日）。
- ・ 1998年と比較し、ウチダザリガニの生息分布が拡大していた。
- ・ 本調査の捕獲状況から、ウチダザリガニの生息分布状況の範囲を予測した。
ただし、以下の事由により、ニホンザリガニとウチダザリガニは同じ場所において共存しないと仮定し、ウチダザリガニの生息状況を予測したものである。
ウチダザリガニはニホンザリガニを捕食すること
ウチダザリガニの保有する病原菌にニホンザリガニが抵抗性を持たないとされること
ウチダザリガニとニホンザリガニが同時に捕獲された実績がないこと

2) 平成17年度調査計画

- ・ 7月～10月 ザリガニ類生息状況捕獲調査
- ・ 7月～10月 ウチダザリガニ試験的対策実施
- ・ 検討事項
 - ザリガニ類の生息分布の状況把握
 - ニホンザリガニの生息個体量の評価
 - ウチダザリガニの侵入予測経路に関する保全対策の検討

2-2-2 タンチョウ生息環境保全調査

(1) 目的

近年、釧路湿原及びその周辺部における河川改修、湿地の農地化、道路整備などにより、釧路湿原に生息する野生生物の象徴種であるタンチョウの生息環境に及ぼす影響が懸念されている。本調査は、タンチョウの生態行動、採餌及び営巣等の環境について現状を把握し、タンチョウの生息環境保全を主な観点とした場合の自然再生の目標設定及び再生手法を検討する。

(2) 調査手法

- ・ 期間；平成17年1月上旬～3月下旬
- ・ 場所；釧路市湿原及びその周辺部
- ・ 方法；高所作業車等による観察及び聞き取り調査

(3) 結果及び今後の計画

1) 結果

- ・ 現状把握のための調査手法の検討
- ・ 越冬期におけるタンチョウの埒と、その埒を利用する個体群の採餌場所